

議会だより

いざ
まます



ヒガンバナ(豊岡)

第51号

平成22年10月31日

9月定例会

- 平成21年度決算全員一致で認定 …………… 2～3ページ
- 平成22年度補正予算 ほか …………… 4ページ
- 委員会の審議 ほか …………… 5ページ
- 町政を問う 一般質問10人登壇 …………… 6～15ページ
- 町民の声を議会へ …………… 16ページ



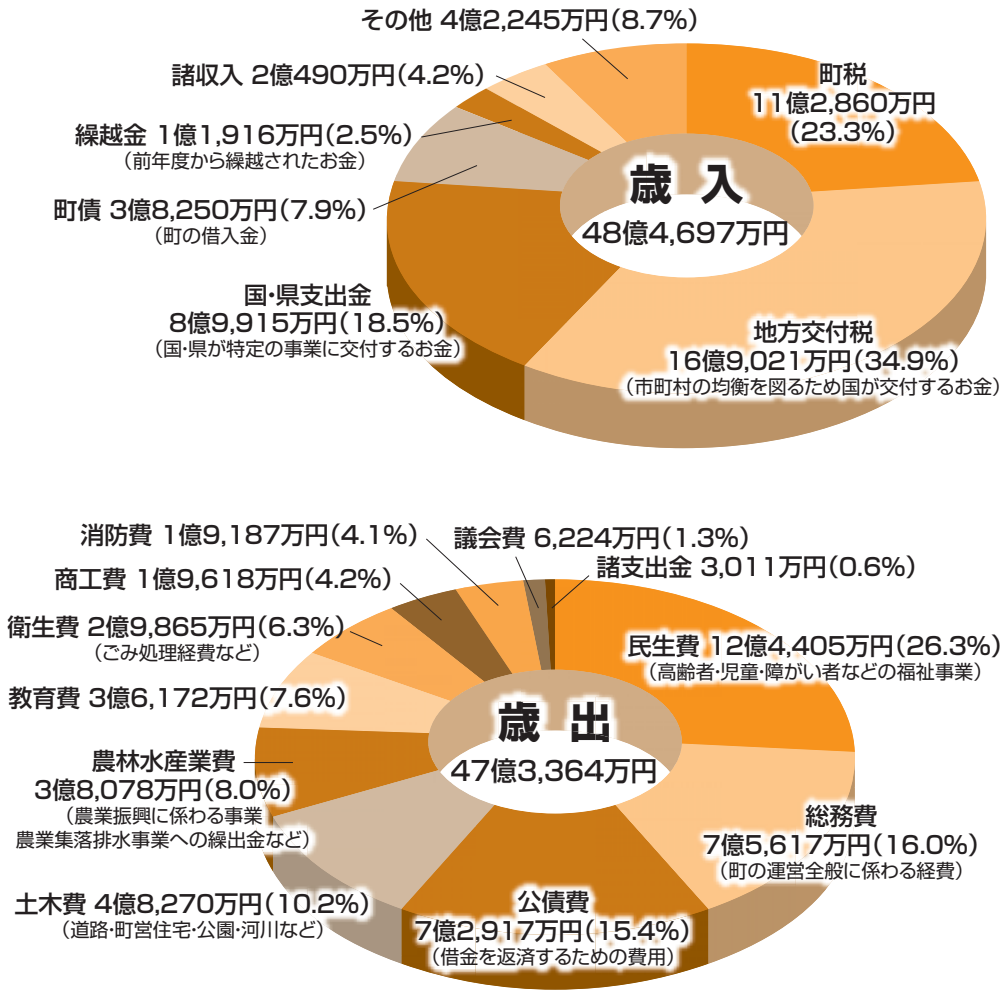
がんばれ ゴールは間近

55万円の黒字決算

76億円はどう生かされたか

9月
定例会

一般会計決算状況 (万円以下四捨五入)



9月定例会は、9月7日から17日までの11日間の会期で開かれ、平成21年度一般会計決算、各特別会計および水道事業会計決算を決算審査特別委員会に付託し、慎重に審査した結果、全員一致で認定しました。ほかに、平成22年度補正予算案件など16議案を審査し、いずれも全員一致で可決しました。

また、請願・陳情2件は総務産業委員会に付託し審査した結果、採択すべきものとなり、本会議でも全員一致で採択となりました。

一般質問は、10人が町政を質しました。

会計別決算状況 (万円以下四捨五入)

会計区分	予算現額	歳入	歳出	差引額
一般会計	54億9,750万円	48億4,697万円	47億3,364万円	1億1,333万円
特別会計	国民健康保険	9億5,081万円	9億6,698万円	9,987万円
	後期高齢者医療	1億 270万円	1億 237万円	172万円
	老人保健医療	1,247万円	1,239万円	901万円
	介護保険	8億3,626万円	8億3,505万円	1,613万円
	公共下水道事業	5億5,428万円	5億4,811万円	3,019万円
	農業集落排水事業	2億4,899万円	2億4,877万円	3,979万円
	水道事業	3億9,204万円	2億8,595万円	-1億 918万円
合計	85億9,505万円	78億4,659万円	76億4,573万円	2億 86万円

平成21年度
決算認定

実質収支は9,3

全員一致で認定 総額

決算審査特別委員会

問 職員の耕地担当制は、耕地や各組織代表の認識が薄い。理解を求め、活用の徹底が必要ではないか。

答 全体の把握はできていない。現状は声が掛からないと動けない。

問 循環バスのデマン方式は、利用者に理解されているか。

答 伸び悩んでいる路線はある。利用の仕方をもっと周知していきたい。

問 投票所や掲示板箇所の見直しが必要ではないか。

答 選挙費用10%カットの状況では、投票所を増やすことは難しい。場所の明確化やバスの運行など検討したい。

問 役場への着信メールに対し、担当課の詳細返信の前に、着信確認と以後の対応方法を

明記し、即時に返信すべきではないか。

答 総務課に来る各係分は担当課へ転送し、発信者へは担当課で処理している。調査し、確実に返答するようにする。

問 介護保険事業の保険給付費の6・5%増は大きい。全体的なこ

分でのこと

答 介護度の上昇と要

介護者の人数が増えたため。

問 観光PRしおり事業の効果は

答 直接効果は見えて

こないが、今後に期待したい。

問 合併浄化槽の法定



介護施設 朝のようす

11条検査は、清掃費に多額の費用が掛かるなど問題点が多い。制度の改正を県や国に働きかけるべきである。

答 公共下水・農集排・合併浄化槽の差を無くすよう補助はしているが、清掃費が一番のネックである。県とも協議し、国に働きかけた。

問 農集排の本管布設から年月が経ったが、清掃は行ったか。

答 修繕に費用が掛かり、予算は盛ってあるが、管路点検は行っていない。

問 石綿管布設替工事を積極的に行うべきではないか。

答 バイパス、公共下水に関連した工事のな



配布された しおり

かで行っている。単独でも取り組みたい。

問 不登校の保護者会ができたが、現状は。

答 まだ全員参加とはなっていない。話し合いの場ができたことで精いっぱい。これからだと思う。

賛成討論

● 厳しい経済状況のなか、財政運営の改善に努めていることは評価できる。27年度には公債費の償還のピークがやってくるが、十分配慮し今後の財政運営を行ってもらいたい。

● 21年度の執行状況を見ると、町内の弱者に対し配慮した政策は適切であった。今後も弱者対策を継続することを希望する。

平成22年度補正予算

平成22年度一般会計と6特別会計の補正が上程され、いずれも全員一致で承認した。

◆一般会計補正のおもな支出

・情報危機管理費

307万円

・上伊那情報センター費

193万円

・町税還付金

100万円

・選挙費△133万円

・太陽光発電施設導入補助金

96万円

・介護慰労金

105万円

・道路維持費

860万円

・公有財産購入費

3626万円

(グリーンハートの返済金)

◆国民健康保険特別会計の補正

前年度繰越金確定による補正で、総額4126万円の追加。

◆後期高齢者医療保険特別会計の補正

前年度繰越金が確定による補正で、172万円余の追加。

◆老人保健医療特別会計の補正

前年度繰越金などの補正で2000万円の減額。

◆介護保険特別会計の補正

保険料の増と国県の支出金が増額された。繰越金は減額となり差し引き65万の増額。

◆公共下水道事業特別会計の補正

繰越金確定により、一般会計からの繰入金は減額補正されたが、総額900万円の追加。

◆農業集落排水事業特別会計の補正

繰越金確定により、一般会計からの繰入金は減額補正されたが、総額686万円の追加。



完成したグリーンハート

その他の承認案件

◆山久・豊岡・本郷第一・北村・高遠原・針ヶ平の高齢者支えあい拠点施設が完成し、設置条例を改正した。なお、6耕地を指定管理者に指定した。

◆長野県地方税滞納整理機構設置の承認

町村では対応できないような事件を担当するもの。



山久地区高齢者支えあい拠点施設

◆財産(建物)取得の承認

町営グラウンド西に完成した地域優良賃貸住宅(グリーンハート)が完成し、引き渡しを受けたもの。

◆飯島町選挙管理委員会委員の選挙

任期満了に伴い、選挙が行われた。

伊藤和夫氏(岩間)・森谷正智氏(南割)・新井稔氏(本六)・伊藤志保恵氏(荒田)を選出し、補助員4名も選出した。

議会全員協議会での町からの報告

◆21年度上伊那広域連合一般会計決算報告

◆21年度上伊那広域連合ふるさと市町村圏事業特別会計決算報告

◆21年度上伊那広域連合振興事業特別会計決算報告

◆21年度伊南行政組合一般会計決算報告

◆21年度伊南行政組合病院事業会計決算報告。1億3950万円の黒字に転換する。

◆第5次総合計画策定の進捗状況。

◆グリーンハート(地域優良賃貸住宅)の入居申し込み状況について。

委員会の審議から

総務産業委員会

委員会では、付託された請願案件1件と陳情案件1件を審査しました。それぞれ全員一致で採択すべきものと決定しました。

請願 国へ

採択
農地・水・環境保全向上対策事業の継続実施に関する請願

賛成5 反対0

●飯島町農村保全対策協議会会長・宮脇康治氏から提出され、内容を審査しました。

請願の内容

国の実施する「農地・水・環境保全向上対策事業」は、飯島町でも成果をあげており、平成23年度以降も事業継続を求めるもの。

審査での意見

●この事業は、飯島町に適用しており、水路の改修などができ、効果を評価できる。

まだ、要望箇所が多くあるので継続を求める。

陳情

「飯島町4区連絡協議会陳情」

①本郷区里用水・清水の下流、塩澤正治さん宅裏水路の改修
②同区五十鈴川武義さん宅北側の「製糸落とし」流路の改修

賛成5 反対0

陳情の内容

●飯島町4区連絡協議会会長・下平文昭氏から提出され、内容を審査しました。

本郷区より4区連絡協議会に提案された、2カ所の改修を速やかに行うことを求めるもの。

審査での意見

●月日において浸食される宅地周辺の現状は、危機的不安感を抱くものであり、早期に施工するよう求める。



本郷区用水路製糸落としを現場踏査

全議員で福祉施設を視察

高齢者の、安心した生活環境を整えるには、特養施設の現状把握が必要と考え、8月19日に特別養護老人ホームさくらの里・グループホームさくら（高遠）・サンハート美和（長谷）を視察した。

「さくらの里」では、

長期入居者87人、ショートステイ15人。長期入居者では、伊那6割、箕輪、辰野、駒ヶ根、飯島の順。

入居の理由は、一人暮らし・老々介護で困難・共働きで介護困難・介護者家族の病気による介護困難などである。

「グループホームさくら」では、職員と農作業などができる。

サンハート美和は、

定員160人と収容人数が多い。職員の介護担当人数がほかより少なく、ゆとりが見えた。介護環境が完備されても、住み慣れた家庭、地域が恋しいのは共通で、地元における介護施設の充実が課題だ。

中部伊那町村議会議員研修会に参加

10月14日大鹿村を会場に、飯島町・中川村・松川町・大鹿村の4町村で構成される中部伊那町村議会の議員研修会が開催された。

毎回各町村から、県や国に対する要望書を提出するための議題提案を行うことを目的に開催している。

〈飯島町議会提案内容〉
★鳥獣被害対策と森林環境整備の拡充強化について【浜田議員】

●伊那生田飯田線宮ヶ瀬橋の早期架け替え（松川町）
●飯島飯田線上片桐バイパスの整備促進（松川町）

●元気づくり支援金制度の充実（松川町）
●野生鳥獣被害対策の強化（中川村）

●伊那生田飯田線の道路改良整備促進（中川村）

●松川インター大鹿線改良促進（大鹿村）
の提案があった。

質問 「買い物弱者」に対する町の取り組みは

答弁 ホームヘルパーの
買い物支援などで努力



倉田 晋司

問 高齢化の進展で高齢者のみの世帯が増えている。日常の買い物が困難な状態にある買い物弱者の実態はどうか。また、買い物弱者についての認識は。

町長 来年3月に把握の仕方が国から示されるが、現在具体的な人数は把握していない。福祉タクシー券利用者も増えており、今後増加が予想され、取り組みが必要な重要課題と認識している。

の買い物支援も加え、日々の生活維持ができるよう努力している。

食材や日用品の宅配など、町内商店の積極的な取り組みもぜひ期待したい。相談窓口を通じて介護保険や自立支援法のサービスを進めながら、今後も精いっぱい努力したい。

質問 地元滞留率が深刻だが

問 県が公表した「商圏調査報告」では、飯島町の買い物客の地元滞留率は4・4%までに激減した。町民にとっては日常の買い物が大変に不便であると同時に、町民の消費支出が町内に還流せず大きな経済的損失と考えるがどうか。

町長 結果は厳粛に受け止め、再出発の起点としたい。商工会との連携・支援を図りながら、企業努力もお願いし魅力ある商店づくりを進めたい。

町民の皆さんにも地元での購入意識を持っていただき、各方面と連携しながら購買率を上げていきたい。

質問 買い物問題を最優先課題に！

問 昨年の町民意識調査で、生鮮食料品等生活関連商店の充実を求める声が圧倒的に高かった。8割が人口増・活性化対策への取り組みに対して重要と考えている。しかし、過半数が現状不満と答えている。

買い物問題を最優先課題と位置づけ取り組みなければ人口増・活性化が実現できないと危惧するが。

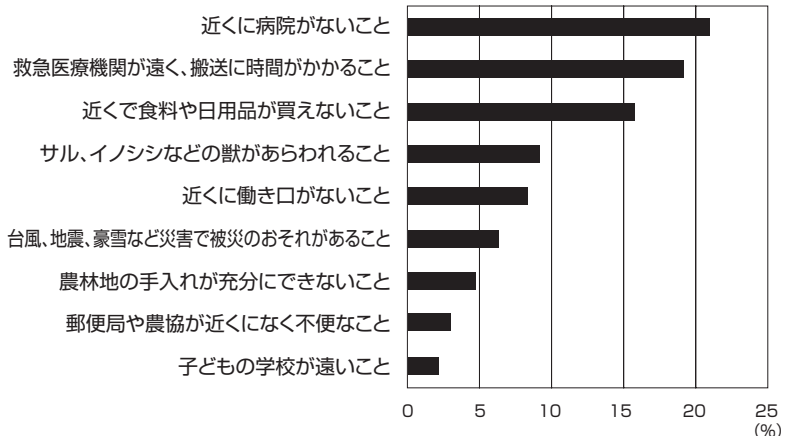
町長 商業振興は重点の1つと認識している。大規模店誘致は可能性を含め検討するが、まずは食料品町内3店舗の利用をお願いしながら、第5次総合計画の基本施策を前向きに取り組み努力したい。

問 今の町の商業は壊滅状態。このままでは人口1万人を割って、今後衰退の道をたどるのではと心配する町民が多いが。

町長 町長への手紙やほっと懇談、いろいろな懇談会でも必ず出さず、苦しい答弁をしていく。行政だけでは決まらず、共々どう打開していくか協力願いたい。

ほかに、閉店したシヨッピングセンターの一日も早い活用ができないか質しました。

◆生活する上で困っていること、不安なこと◆



国土交通省「人口減少・高齢化の進んだ集落を対象とした日常生活に関するアンケート調査」(平成20年度)

問 有害鳥獣防護柵を
町単独でできないか

答 弁 町独自では難しいので
補正と来年度に期待している



久保島 巖

問 今年度当初予算で計上した有害鳥獣被害対策施設設置補助金だが、国の事業仕分けや予算査定で当町の予算配当はゼロとなった。被害状況は町内全域に蔓延し困っている。

この状況をどう考えるか。

町長 平成20・21年度が23力所、22年度が8月までで36力所に増えている。政府の景気対策を含めた補正予算の概算要求に期待をして

いる。
問 国の対応を待っている。手遅れになる。

街灯のLED化で町費1120万円捻出したように、今年度分だけでも町単独事業でできないか。

町長 LED化ができて、こちらがなぜできないとの比較の問題ではなく、あくまでもやりたいとは思っている。

3年計画の枠組みであり、補正予算にも一抹の期待を抱き、来年度拡充する農家個別所得補償が畑作に対しても広がることを期待している。

こうした状況のなかで、もう一度議論し構築する必要もあるが、今年度だけ町単独で実施する結論には至らない。



外敵から身を守る防護柵(中川村)

問 地域づくり委員会の進展を

問 現在、地域づくり委員会にどこまでの権限と1事業いくらまでの事業規模を想定しているか。行政のなかでの位置づけ、区会との住み分けはどうか。

町長 地域づくり委員会は区とは別に役割分担を明確にして、別組織として発足した。

自治組織であるので、地域で規則を定め、事業計画をし、必要な事業費は地域で賄ってもらうのが原則だ。町でも十分ではないかもしれないが支援をしていく。

問 国の地域主権のなかで、地域の取り組みが注目されている。

名古屋市では、公募

による委員も含めて住民投票により地域委員会を組織している。当町の地域づくり委員会の委員構成も含め、第5次総合計画の扱いは、町長 地域づくり委員会は地域の発展なくしてはならないと考える。自ら取り組む受け皿として発展する方向で考えて、第5次総合計画素案にも位置づけされている。

問 横浜市の泉区は各

地域委員会が「自分たちでやるもの」「行政と協力するもの」「行政がやるべきもの」を仕分けしている。

また、各地域委員会から2名ずつの委員を選出し地域協議会を作り行政の諮問機関としての役割も担っている。当町でも、このような組織形態が望まれるが。

町長 都市型の地域づくりの取り組みとは根本的に違うと考える。

飯島町の地域づくり委員会は、まだ成熟した形ではないが、よい形でスタートした。正式な協議機関ではないが、区長さんが中心に集まって連携を図っている。改めて、諮問機関としての協議会を設ける考えはない。

質問

財政力指数から見た考えは

弁答

財政力強化のため
観光も含め振興を図る



北沢 正文

問 平成21年度決算の財政力指数から見て、次期長期構想のなかで町単独の財源をいかに確保していくのか。

町長 標準的な財政活動を行うために必要な財源を、どれくらい自前の自治体で調達できるかを表す数値が財政力指数である。

交付税頼みだけでは活力あるまちづくりの財政運営はあり得ない。具体的には、農・工・商と連携したなかで

第6次産業に取り組む福祉政策や企業導入を含め、雇用の確保、若者定住の促進、子育て支援などに繋げたい。

問 町内では商業意欲の減退、公共事業の減少などの難題が山積みしている。国の緊急経済対策の追加や国内産業空洞化対策などが打ち出されている。

これらをチャンスとして町長が財政力を強くする道筋を示すべきだ。



農商工連携による「信州飯島唐辛子ピネガー」

町長 自前の財政力をつけるため、第6次産業プラス観光面を含めて第7次という構想で、非常にインパクトがあると思う。ふるさと大使の宮澤さんや多くの方の知恵を借り、産学官の連携や上下伊那の連携による全体のグレードアップを目指したい。

質問
税を身近に
感じられる方策は

問 平成21年度決算で町税・国保税累積滞納額が1億1000万円余、不能欠損額が1300万円余に上った。

財政力がついても、この部分が増えていけば実質的な財政力は衰えてしまい、不公平感も増してくる。

町でも数々の対策を講じているが、税を身近に感じられる情報の提供が大切ではないか。

町長 今年度からコンビニ収納を開始し、県や他市町村との徴収機構を設立した。

税を理解してもらうには子どもの時からが大事で、小中学生に対する租税教育を行っている。町の税に関する出前講座も成果を挙げている。税申告時の広報・ホームページの充実・成人式での広報などをやっている。

問 納税に対する情報の積極的な提供が不足しているのでは。

町長 決して小中学生の租税教育をして終わりではない。広く一般大人の社会に至るまで税の意義、責任義務をいろいろな広報媒体を使いながら、国税とも連携をとりの確な時期にできるだけ啓発活動に努めて行く。

質問
待ち望む「子宮頸がん予防
ワクチン接種」の町費補助を

答弁
来年度に実施する方向で検討



中村 明美

問 子宮頸がん予防ワクチン接種は任意のため、費用が3万6000円〜5万円と高額だ。そのため全国114市区町村が公費助成をしている。

国が早急に交付すべき」と、ワクチン接種の公費助成を国に要望した。しかし、国の制度制定には時間が掛かると思われる。そこで、町民が心待ちにしている子宮頸がん予防ワクチン接種費用に対し、町の補助を求めるが、

県内では松川町が一部補助。根羽村・南牧村が全額補助。富士見町が8割補助。木曽町は23年度から開始予定である。

当町でも町民要望があり、前回の6月議会です「自治体任せでなく

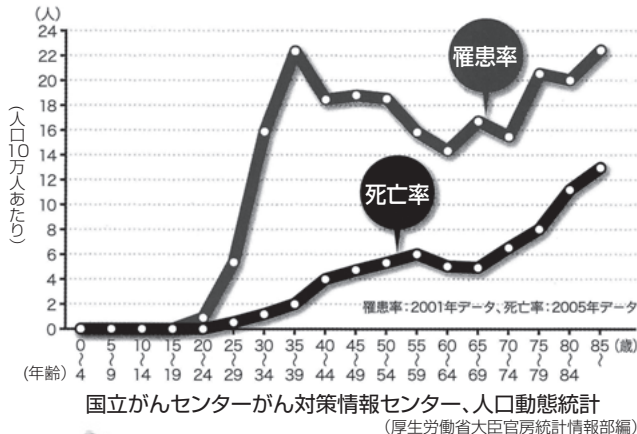
質問
中学生から「女性特有
のがん」知識の教育を

問 今若い女性の発症率が高いのが「女性特有のがん」とのこと。

そこで、予防策の一つに中学での知識教育が必要と考える。現在、中学での健康管理における教育で「がん」独自に関する内容は行っていない。ぜひ、保健センターや学校と調整し実施すべきだが。

教育長 その疾患に対する認識はしている。思春期の心身の発達段階で、生徒一人ひとりが適切な行動がとれるよう、優先度を考えることが大事に思う。教育課程を編成するなかで、「女性特有のがん」をどのように位置づけ、どういう内容で指導するか考えながら、今後学校とも協議検討したい。

◆子宮けいがんの罹患率と死亡率(日本人女性)◆



ワクチン接種補助を待っています

質問
がん検診受診率
アップへの取り組みは

問 長野県がん対策推進計画では、現在の検診受診率30%から、平成24年度までに50%に向上させるとある。目標達成に向けて町の取り組みと現状は。

町長 平成24年度を目標に取り組んでいる。予防措置としての検診は、自己の健康管理責任の下で行い、受診補助として行政が対応をしていく。

住民福祉課長 受診申込者は、昨年同時期に比べ5%ほど増えている。申込者が受診を受けるよう勧奨活動に努めたい。これには健康推進委員の方々の協力を得ている。

問 昨今の景気低迷の影響を受け、雇用環境も厳しく平日に検診時間が取れない人がいる。休日検診を伊南行政に強く働きかけるべきでは。

住民福祉課長 過酷な医療実態で難しいが、毎年要望を出している。医療再生において、休日検診行為も含めたなかで体制構築に対する声を届けていきたい。

質問
アナログテレビ処理・
不法投棄防止策は

問 来年7月アナログ地上波が廃止となる。悪徳業者からの高額処理代請求などのトラブルやリサイクル料惜しさに、不法投棄の発生が懸念されるが、町の対策は。

住民福祉課長 広報・テレビなどで周知し、包括支援センターの訪問活動などで相談に乗り対応していきたい。

不法投棄の量は年々減少しているが、制度の趣旨普及に十分力を入れるとともに、監視パトロールで未然防止、不法投棄者の発見や廃棄物の速やかな処分力を入れていく。

問 各種委員の報酬の
バランスは取れているか

答 弁 特別職等報酬審議会に諮り
各種委員の待遇改善を進めたい



堀内 克美

問 社会情勢の変化、景気の後退、雇用不安など地域を取り巻く環境の変化、委員職務の増加、任務の複雑化などで、各種委員のなり手が少ない。委員によって、月額報酬に2・5倍の格差がある。

町長 各種委員の報酬は、近隣の市町村などの水準を参考にして特別職等報酬審議会の答申により進めてきたが、ここ10年来改定していない。

時代の変化で職務が多岐にわたり、日夜大変ご足労させている。

民生委員だけでなく、全体的に見直すため、特別職等報酬審議会に諮りたい。

町のために赤い日をつぶして活躍している委員の報酬バランスを改善し、報いるため見直しを行う考えはあるか。

問 道路わきの草刈に
刃の支給を

問 道路わきの草刈は、長年隣接する者により管理をしてもらっている。

草刈作業をする人に、刃を支給する考えはないか。

町長 古くから、地域の皆さんの協力で管理をしてもらってきたが、高齢化などで、難しくなってきたことは理解している。まちづくり交付金の増額も含めて、実際に管理に当たる人への草刈の刃の支給などは検討課題としたい。

最近では高齢化や住民意識の変化で道路に草が覆いかぶさるところもある。これからは、協働活動として地域みんなで支えあっているか。



住民による道路わきの草刈作業

問 基本計画を
議決事項に

問 右肩下がりの低成長期の自治体運営は、リスクの少ない、より計画性・実効性のある運営が求められている。現在、第5次総合計画の策定中であるが、夢物語でなく実現性のあるものになっているか。

町長 長期計画であり、努力目標として多少は夢を謳いながら、目標に向かって政策の基本として位置づけている。

問 基本計画の目標について過大である数値が多く見受けられる。基本構想より具体的な目標であり、ある程度の実現性が求められる計画は実現性に乏しい夢の数値ではないか。

町長 人口目標は、かなり厳しいものがある。そのほかにも設定目標を少し高く置いているところがある。

総務課長 目標数値は、同様の意見が分科会でも出されている。策定作業中であり、意見を参考に目標設定をしていく。

問 今、自治体は、住民に分かりやすい行政への移行を進めている。基本構想は、議会議決しているが、きわめて長い先の将来目標であり漠然としている。基本計画をもっと具体的なものにして、議会議決案件とし、責任ある行政運営を行う考えはあるか。

町長 基本構想は地方自治法で議決事項に定められている。

基本計画・実施計画は、法で定められていないので議決事項とするとは考えていない。

質問

「福祉のまちづくり」課題は

答弁

地域の支え合いと 支援体制の充実



三浦 寿美子

問 飯島町の現状で、社会的弱者が安心して自立生活することが可能か、家族の抱える問題や不安にこたえられるのか検証が必要。

「福祉のまちづくり」を進めるために必要な課題は何か。

町長 8年後には3人に1人が65歳以上になる。障がい者や介護者の高齢化、1人親家庭、経済不況による低所得者が増加している現状を大変厳しく受け止め

基本計画のあり方を見直す必要があるのではないか。

町長 基本計画は、8つの方向、48の具体的な施策の体系である。施策を具体化して予算化するのが実施計画であり、毎年度の予算計画である。具体的な施策は、財源問題を含めたなかで努力をする。

問 生活保護世帯の増加、身体障がい者の増加と重度化、療育手帳保持者の増加などは、高齢化問題もあり、本気で地域で支える体制をつくらなければ深刻な問題になる。

現場で頑張っている職員の意見や必要と考えている施策を次期計画に反映する必要があるが把握しているか。

町長 年に一度必ず一般職員と直に懇談して聞いている。今の課題への意識を持つことや問題点を解決する努力を行うことを督励して

いる。

質問 福祉係を独立しては

問 福祉係は直接住民とかかわる必要があり、現状では十分な対応をする体制がとれないのではないか。

住民福祉課から分離し福祉課として独立したほうがよいと考えるがどうか。

町長 部署により国の政策などで比重の度合いが常に移動している。職員の総数減の対応、行財政改革の手法も入る。

住民福祉課は、役場のなかでも多くの係職員を抱えている。弾力的な考え方で、必要な場合には人員を充足させる形でメリハリの体制で行う。

質問 障がい者福祉の 向上を

問 町内への障がい者のグループホーム建設の動向はどうか。

町長 施設を町内に求める声が多いことを承知している。

今年に入って民間の動きがあつたが、実現できなかったと聞いている。

町は、関係者との話し合いで実現可能な方向で支援活動をする。



障がい者のグループホーム(松川町)

可能な限りの支援を所管課に指示している。

問 障がい者がいきいき生活するためには、じっくりかわれる専門家の配置が必要だが、

町長 すぐという訳にはいかないが、福祉の総合的な悩みなどに対応する専門的なものを考えていく必要がある。

住民福祉課長 係では電話や出向いての相談にも応じている。遠慮なく相談して欲しい。

問 障がいを理解してもらうために、認知症サポーター養成講座のような講座を開設してはどうか。

住民福祉課長 これからは考えていかなければならない。

問 今回の提案を次期計画に生かすことへの所見は。

町長 具体策のきめ細かい対応が必要と十分認識している。精いっぱい努力する。

質問
農業後継者に
育成資金貸付を

答弁
現制度を生かしてもらいたい



平澤 晃

問 農業振興政策は命の循環と賑わいを保つことが基本。食を支える農業、農を支える食生活のために、新規就農者に育成資金の貸付制度の創設を提案するがどうか。

新たな貸付制度の創設は考えていない。

問 第6次産業に対する振興支援が強く打ち出されている。

地域の特性にあった産業振興施策に物心両面の支援をし、新たな検討協議会の立ちあげを提言するが、町長の考えは。

町長 新規就農者の確保や育成を図ることは、町の基幹産業である農業を守るため大変重要。農業振興総合対策の各種制度により、借入に対する利子補給の支援を行っているので、

町長 行政として課や係の連携による支援を行い、農・工・商また産・学・官提携による製品開発が行われている。

総合的な施策を進めることを今後検討したい。

問 定住促進対策は見直す時期がきている。総合的な定住促進対策の考えはあるか。

町長 定住促進プロジェクト構想を推進している。

田舎暮らしの総合案内センターを設置して対応する。今後連携を取りながら積極的に進めていく。

問 災害弱者の支援計画は

問 避難支援計画と地域支え合いマップの整合性はあるか。

町長 平成18年度に地域防災計画を修正し、避難訓練を行っている。平成19年度に職員初動マニュアルを定めた。有事の場合はこれに基づいて対応する。

問 防災直後の避難は人命の安否を大きく左右する。援護を必要とする人の把握はできて

災害時の心がけ

特に洪水時に避難する際は、河川の管理道路の利用は避けましょう。水があふれたらりする場合があります。

避難時の心得

 ラジオ・テレビで最新の気象情報に注意しましょう。	 避難の時は、役場・消防署・警察署などの指示に従い早めの避難をしましょう。	 避難する前に電気・ガスなどの火元を消し、必要なものをまとめておきましょう。
 車での避難は緊急車両の妨げとなりますので、控えましょう。徒歩での避難を行います。	 洪水箇所は溝や水路に気付きにくいので、十分注意して避難しましょう。	 役場、消防からの避難の呼びかけに注意しましょう。
 万が一避難が遅れ、危険が迫った場合は近くの丈夫な建物の3階以上に逃げましょう。	 マップで最寄りの避難所の位置を前もって確認しておきましょう。	 洪水時のぼた、長靴は禁物です。動きやすい運動靴で避難しましょう。

体の不自由な方やお年寄りの方は避難することが困難であったり、遅れたりすることがあるため、地域の皆さんで協力して助け合いましょう。

要介護者への協力

 「お手伝いしましょうか」などと大きな声でゆっくり話しましょう。 杖を持っていない人にまわり、ひとりのあたりを歩く時、歩幅をゆっくりと歩きましょう。	 特に一人暮らしのお年寄りの方には普段から気を配りましょう。	 話すときは近くまで寄って相手にまっすぐ顔をむけて口を大きくはきはきと話しましょう。 靴に響いたり、身振などで情報をわかりやすく伝えましょう。	 体の不自由な方には座りやすいように。 ・複数の人で協力しましょう。 ・緊急の際は、ヒモなどでおぶって避難しましょう。 ・車いすの場合は必ず3人以上で協力し、上り下りは緩やかに、下がる時は後ろ向きで避難しましょう。
--	-----------------------------------	---	---

する人の把握はできていますか。

町長 社協に委託して各耕地に支え合いマップの整備を依頼し、自力で避難できない人の家を地図に落とした。

民生児童委員にも情報収集してもらっている。町で一元的な把握はしていない。

問 個人情報保護は難しい問題があるが、消防団、自警団にも情報の共有は必要だが、

町長 消防団は災害時、要援護者の避難準備情報段階で避難活動支援を行うこととなっている。

自警団は区および耕地自主防災組織の一員として避難活動支援を行う。

社協、民生委員、自主防災組織、ボランティアからの情報を得て消防団と自警団が連携しながら避難誘導にあたる。

質問

飯島が大好きになる教育を

答弁

多様な学習・体験を通して
行っている



坂本 紀子

はそばを育て、そば打ち体験をする。小学4年生以上が入る「緑の少年団」は間伐材を使った木工体験。5年生は稲作りから収穫まで、育て作る感動と喜びを体験している。中学生は技術家庭科で木工、電気製品の製作、調理や裁縫を行っている。

問 千葉市の小学生が農業体験で町内ボランティアの家に泊まり、飯島の子どもたちとも交流している。

教育長 飯島の小学生が都会で2泊ぐらい泊めてもらう体験を提案するかどうか。

教育長 他人の飯を食べる体験をさせるのか、都会の生活を味あわせるのかでは目的が違う。千葉市が来ているからそこへ行くというのは少し違うのではないか。

問 飯島町の歴史を学ぶ機会はあるのか。

教育長 小学3年生から「ふるさといいじま」という副読本を使い、歴史・地理・人物・産業を学んでいる。

問 授業のなかで、郷土研究会・古文書クラブ・陣屋友の会などと交流し、歴史と遊びをドッキングした体験をしてほしいが。

教育長 授業のなかですべてはできない。社会教育や地域の応援を得ながら、土・日を使い学んでいってほしい。

問 戦争と平和の授業を行っているか。

教育長 小学3年生から国語の読み物のなかで行っている。飯島小学校と七久保小学校の6年生の交流会で、町内の戦争体験者から話を聞くことを続けている。

七久保小学校にある「青い目の人形」の校長講話やそれを題材とした朗読劇に参加している。

問 病院や福祉施設の見学を中学卒業までに行い、病氣・障がい・老い・死を考えるきっかけをつくるべきだが。

教育長 中学生の職場体験や小学生のボランティア体験の取り組みを行っている。弱い人に対する思いやりの心を育てることが目的である。

問 飯島を大好きになる教育を積極的に行うべきと考える。当町には農林業・商工業・サービス業などがあり、これらの仕事を見学や体験させているか。

教育長 飯島小学3年生は、花の里いいじま・マルヤス長野・内堀醸造・大成ハムなどを見学し学習している。中学2年生は、今年38企業が協力を得て、87人が職場体験学習をしている。

問 中学生になると授業のなかで地域との交流が随分と少なくなるが、高校受験のためか、土曜日が休みとなったためか。

教育長 授業削減というふうに認識していない。

問 飯島は農産物・花・工業製品の部品などの生産地である。物作りの喜びを感じさせる体験を小・中学校で行っているか。

教育長 七久保小学校



収穫のよろこび (写真：小学校より提供)

質問
太陽光発電補助金
単価など拡充を

答弁
金額増や対象拡大は
考えられない



竹沢 秀幸

問 一般住宅の太陽光発電に補助に乗せがでないか。また、民間の事業者が屋根を借りて太陽光発電をした場合に、補助できないか。

町長 個々の家庭などに対する太陽光発電設置補助は、住宅と事務所もしくは店舗などの併用住宅を対象にしている。1キロワット当たり3万円を補助し、最大12万円。

4月から8月末までの補助申請受付件数は19件。

この事業は今年からスタートし、当初見込んだ11基に対して19基であり、予算が不足している。この事業を進めるため、8基分96万円を補正した。今後、追加の補正も考えていく。しかし、補助金の増額や対象を拡大していくことは考えられない。

質問
役場庁舎に
太陽光発電を

問 環境に優しいまちづくりのシンボルとして、箕輪町でも実施した役場庁舎に、太陽光発電と庁舎内照明をLED化できないか。

町長 町では庁舎も考えたが、優先して学校教育の現場として3校足並みを揃えてこれを導入した。

今後の施策の動向に注目したい。

また、さらに一層の技術革新も期待できる。財政事情から今すぐというわけにはいかないが、いずれは実施したい。

問 新年度予算編成に向けて検討できないか。

町長 新年度は無理。3年間の実施計画に盛り込むか検討する。

質問
日曽利地区の
有害鳥獣対策を

問 国の11年度予算概算要求で、農水省の鳥獣被害対策支援費113億円である。

しかし、緊急対策の同総合対策交付金を本年度、飯島町が申請したが、事業仕分けにより、ゼロ配当で、次年度へ事業を繰り延べさせるを得なくなった。

こうした動向を踏まえ、3カ年計画で行う、日曽利地区から始める防護柵設置事業を、町はどう対応するのか。

町長 23年度からスタートすることを前提とし、地元や関係する機関、団体と協議をして実施に向け、詰めていきたい。

問 有害鳥獣駆除対策は、施設駆除と個体数減の殺傷駆除の双方が必要。

罾を、仕掛けるには狩猟免許が必要だが、

伊那市では、構造改革特区を申請し、括り罾を農業生産者がだれでもできるように取り組みを開始する。

ほかにも、多種の駆除対策を研究導入する必要があるのでは。

町長 飯島町に置き換えた場合に、日曽利エリアだけでなく中川、飯島、駒ヶ根に至る二ホンジカの被害対策が必要。一部、西の地域も心配だ。東側でなんとか防ぐため、特区申請も含め研究が必要だ。

問 農業農村の国の政策は、その責任で財政措置するよう、町長は国や県に引き続き働きかけを行うべきだが。

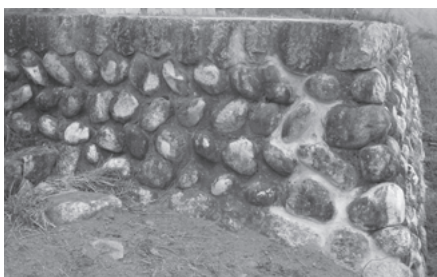
町長 さらに協調して全国の皆さんとともに、要望を強く行っていく。

質問
柏木経塚墓地
石積み劣化の修復は

問 経塚墓地の、石積み劣化の修復をしたのか。

町長 40年余り前に造った玉石積み擁壁が土留めとしてある。下の方から1メートルくらい、少し亀裂が入っている。

倒れては困るので、専門家設計サイドに確認をした結果、倒れることはない。時間の経過とともに入ったクラックであり、地元の墓地組合と話し合い、今議会です算補正し、補修をする。



補修した石積み

質問
土地利用計画は
優良農地を潰す計画で問題だ

答弁
県や国に示せる工業団地は
農地しか適地がない



浜田 稔

問 土地利用計画の策定が進んでいるが、町の本音の説明がない。工業団地は柏木の5ヘクタール増が計画表に記されている。しかし、付属の構想図では鳥居原や北街道の農地が新工業団地に色分けされ、より広い増加計画だ。どちらが県とすりあわせた正式の計画なのか。

総務課長 図面は土地利用を誘導するための将来イメージなので計画表の数字に含めていないが、

問 最初から優良農地を潰す計画を示すのはいかなるものか。4次総の検証結果では、農地と工業用地の取り合いに十分注意を払うという報告であった。

町長 農地を減らさないという考え方もある

が、飯島町が県や国に示せる工業団地は農地しか適地がない。

問 現商店街とバイパス沿線商業区域は両立するのか。買物難民対策を含め、現中心街の活性化を先行させるべきではないか。

また、宅地面積は大幅増の計画だが、既存の住宅が取り残され、交通手段を持つ人々の新興住宅地ができて、新旧住民の分断を誘発

する構図だ。予防策は検討されているのか。

町長 町民アンケートでは、2つの商店区域共存を求める意見とバイパス沿い開発要望とが同数だった。既存商店との整合性を図って総体的に開発を進めたい。

バイパスと現中心街をつなぐ下在を住宅地域として発展させる構想だ。総合的に産業振興を図っていきたい。

問 5次総は抽象的で

質問
町の企業誘致の
検証結果は

問 前回の一般質問で、企業誘致の経済効果の報告を求めたが、検証結果は。

町長 町内4工業団地の企業からの過去8年間の税収は、企業誘致のための減免分を差し引いて累計8・8億円で、町内法人税収の16%にあたる。

実効性のある総合計画への町長の所見は。

判りにくいという意見が多い。行政のプロとして、全国の実験などから計画のマイナスイメージも示して、どう対策を講じるのかなど突っ込んだ議論を進めるべきだ。

町長 スーパーや企業誘致だけでなく、農業・福祉など総合的に産業振興を図りたい。



国土利用計画(第3次飯島町計画)素案

平成20年を基準に、10年後の平成32年を目標とする町の土地利用計画。この計画の飯島町土地利用構想図の町中央部の拡大図を示す工業ゾーンのうち●をつけたのは新たな工業団地。

町民の声を議会へ

このページは町民の皆さんに取材協力願い、町政や議会に意見や感想を掲載しています。今回は「信州飯島さくら(馬)を咲かす会」の小林馨さんこばやし かおるに登場いただきます。

さくら(馬)を咲かす会の活動は

信州飯島さくら(馬)を咲かす会は、平成16年の「ふるさとC M大賞」で、当町が大賞を受賞したのがきっかけとなり設立されました。今年で6年目となり、13店舗で活動しています。



お孫さんのパワーをもらって頑張る小林さん

め、情報交換・研究会・勉強会などを行っています。飯島町の名物「馬ロツケちゃん」も、この会でできた自信作の一つです。

会のおかげで仲間との連帯感も強くなり、各種イベント参加など積極的かつ容易になりました。

2年前から、保育園・学校給食で「馬ロツケちゃん」を食べてもら

ったり、町外からのイベント参加依頼もあります。市町村の連携として参加協力しています。

私たちは、馬のさくら・木の桜・人のさくらを3資源と捉え、今後人も人々との新しい出会いのなかで、輪が広がるよう積極的に行動していきたいと思っています。

議会だよりを読んだ感想は

写真・グラフなど上手に利用されて、どのページを見ても構成も良く、議会一般質問の内容もわかりやすくまとめられていると思います。

また「編集後記」も楽しみに読んでいます。

町や議会の問題点と課題は

★4～5年くらい前から、若者定住・雇用・人口増などの政策で、若者向けの町営住宅の

建設に取り組み、それなりに成果も見え、若者の定住・人口増などに繋がっています。

その反面、年配者の声として若者向けの住宅も良いが、私たち年配者で買い物にも行けない、車も運転できない、など、ひとり住まいの人にも町なかに年配者向けの住宅が欲しいと、よく耳にするようになりました。毎日の生活に不便を感じている人が益々増えているように思えます。

このような人々の気持ちも考えてもらいたいと思います。

★「さくら(馬)を咲かす会」を設立してから、何かと相談・行政協力などで観光協会の窓口に足を運ぶ機会が多々ありますが、この5年間の内に局長が4人も変わる状況です。もともと腰を据えて最低でも4～5年定着した人事はできないものではないでしょうか。

編集後記

目の前を鹿の群れが駆け抜けていった。まるで、映画のシーンのような光景だった。住み慣れた身近な場所のできごとである。子どもころは、鹿といえば、子鹿のパンビの挿絵と修学旅行の春日公園であったが、今では、有害獣として近くにいます。

一面そば畑のはずだが、茎だけが残る無残な光景がそこにはあった。収穫間際のこの悔しさは、作った人にしかわからないのだろう。鹿だけではなく、猿・熊・猪など、十数年前には考えられなかった自然環境、生態系の変化に危機感をおぼえる。防護柵や個体調整など、被害を抑える対策が急がれる。